

---

# KENDO

伊東 光

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

KEND O

### 【Nコード】

N1010D

### 【作者名】

伊東 光

### 【あらすじ】

面倒くさがりな「僕」の前に突如として現れた謎の美少女の正体は……？まあ、どうでもいいか

僕は日ごろから何をするのも面倒くさがっていた。

朝起きるのも面倒。

朝食を食べるのも面倒。

着替えるのも面倒。

学校行くのも面倒。

だから母さんに大声で怒鳴られる。

けど、返事するのも面倒。

布団に入って二度寝しようとするのだけれどそれも面倒。

だから何にもせずにぼんやりテレビを眺めてたけれども、ひまだなあ。

やっぱり寝ようかな。

でも面倒だなあ、なんて思っていたらいつの間にか寝ていた。

眼を覚ますと、外はもう夜のようにだった。

なぜわかるかって？そりゃ、窓から日光が差し込んでいなかったから。

部屋の照明が付いていたおかげで、まぶしかったあ。

ぼんやりしていると、キッチンのほうから女の子が出てきて僕のほうへやってきた。

「ああ、やっと起きてくれたんですね」

かなり可愛い美少女だった。青い髪、黄色い瞳、まだ幼い体形。恐らくロリコン好きの輩でなくとも彼女を一目見たらハートを奪われていただろう。僕はべつになんとも感じないけど。

だから、これから彼女との妄想でしかありえないような生活になるだろうな、なんてことは露ほどにも考えなかった。

僕の心の中にあるのは、そういつだって、め・ん・ど・う、の四字字だ。

ああ、マジ面倒くせえ。

そんなことに、興味ないつつの。

どうでもいいやと本気で僕は思った。

どうでもいいし、面倒だし。

そこまで考えて僕は思う。

こてさきの出来事でしかない、彼女との出会いは僕の人生において何の意味もない。

いみもないし、どうでもいいし、めんどうなので、もう、おわり

（後書き）

注意……其ノ巻、本文ニ、イワユル萌エ要素ハホトンド盛り込まレ  
テイマセン。

其の式、たいとるハ『駄洒落』トナツテオリマス。氣ツカナイ方、  
及ビ作者ノせんすヲ疑ウ方ハゴ容赦クダサイ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1010d/>

---

KENDO

2011年1月26日12時45分発行